Panasonic

Wエコ

施工説明書
取扱説明書
保管用

シンプルセルコン階段灯・非常用照明器具 階段通路誘導灯 （兼用器具）

（一般屋内用）　品番 FSS61570 〔電池内蔵型〕

・器具の取付には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

施工説明　工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意

⚠警告

●**施工は、取付方法にしたがい確実におこなう。**
施工に不備があると非常点灯せず、正しい避難誘導ができないほか、落下・感電・火災の原因となります。

●**器具を改造しない。**
落下・感電・火災の原因となります。

●**表示された電源電圧（定格電圧±6%）・周波数以外の電源で使用しない。**
感電・火災の原因となります。

●**蓄電池を短絡、分解等しない。**
破裂・やけど・感電・火災の原因となります。

⚠注意

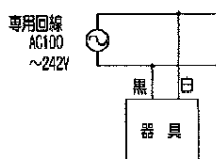
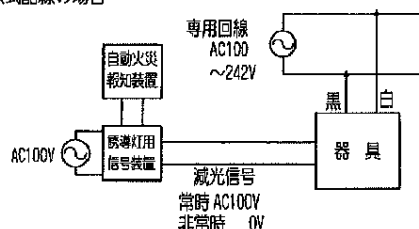
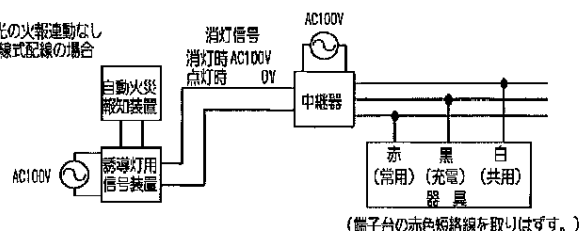
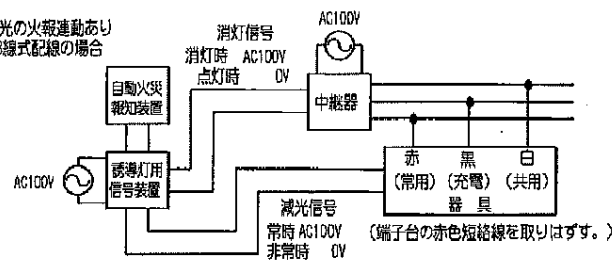
●**この器具は一般屋内用器具です。直射日光の当たる場所、湿気の多い場所、振動の強い場所、雨のかかる場所、腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。**
落下・感電・火災の原因となります。

●**外の風が直接当たる場所では使用しないでください。**
落下・破損の原因となります。

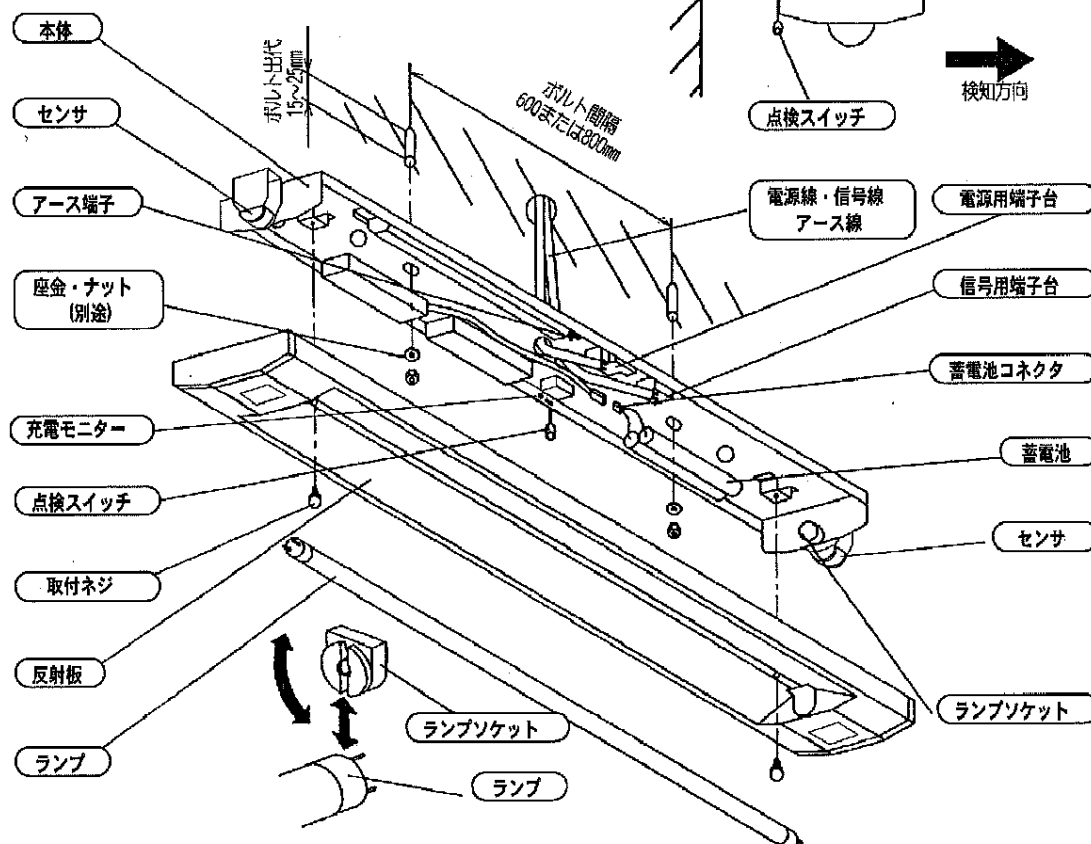
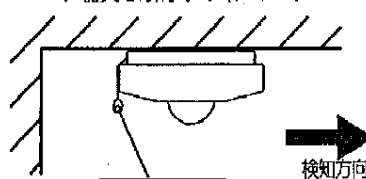
●**周囲温度は、5～35℃で使用してください。**
蓄電池の劣化や火災及び非常点灯しない原因となります。

●**この器具の電源は専用回線にしてください。**

●**階段通路誘導灯として使用される場合、常時、連続点灯して使用してください。**
常時消灯して使用される場合は、事前に所轄消防署の了解を得てください。
消灯される場合は自動火災報知設備との連動が必要なため、誘導灯用信号装置等を用いて消灯してください。
誘導灯用信号装置等の入力電圧の確認をしてください。感電・火災の原因となります。

●**48時間充電後→非常点灯の確認をしてください。充電しないと非常点灯しません。**

各部のなまえと取付けかた

⚠警告

施工は、取扱説明書にしたがい、確実に行なう。
施工に不備があると、火災・感電・落下の原因となります。

1. 取付前の確認

・器具質量（5.0kg）に十分耐える様、取付部の強度を確保する。
・取付ボルトは、W3/8またはM10を使用する。
　不備がありますと、器具落下の原因となります。

2. センサの調整

・取付ネジをはずし、反射板を取りはずす。
・《センサの調整のしかた》（3～5ページ参照）により調整を行う。

3. 本体の取付

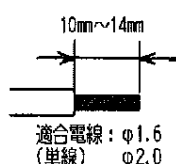
・電源線、信号線、アース線を本体の電源用穴から引き込む。
・本体を取付ボルトで確実に取付ける。
・取付方向は本体表示にあわせる。間違えるとセンサが正常に動作しません。
　取付に不備がありますと、器具落下の原因となります。

4. 電源線、信号線、アース線の接続

・電源線、信号線を端子台に確実に差し込む。
　（結線は《電源線・信号線の接続方法》6ページを参照願います。）
・**この器具は、器具内送り配線が可能です。**
　端子台の容量は20Aです。
　接続が不完全な場合や接続を間違った場合や容量オーバーした場合、火災の原因となります。

10mm～14mm

適合電線：φ1.6
（単線）　φ2.0

・D種（第3種）接地工事が必要です。
　接地が不完全な場合、感電・漏電の原因となります。

5. 蓄電池コネクタの接続

・蓄電池コネクタを確実に接続する。
　接続が不完全な場合、非常点灯しません。

6. 反射板の取付

・取付ネジで確実に取付ける。
　取付はドライバー等を使用し確実に取付けてください。
　取付に不備がありますと、反射板落下の原因となります。

7. ランプの取付

・ランプを差し込み90°回転させて確実に取付ける。
　取付が不完全な場合、火災・落下の原因となります。

8. 電源の通電

・反射板、ランプの取付後、すみやかに電源通電してください。
　蓄電池が放電してしまいます。

9. 充電状態と非常点灯の確認

・電源通電状態でランプおよび充電モニターが点灯するか確認する。
・点検スイッチを引っ張り、非常点灯するかを確認する。
　正常に動作しない場合は『故障かな?と思ったときは』（8ページ）の項を参照してください。

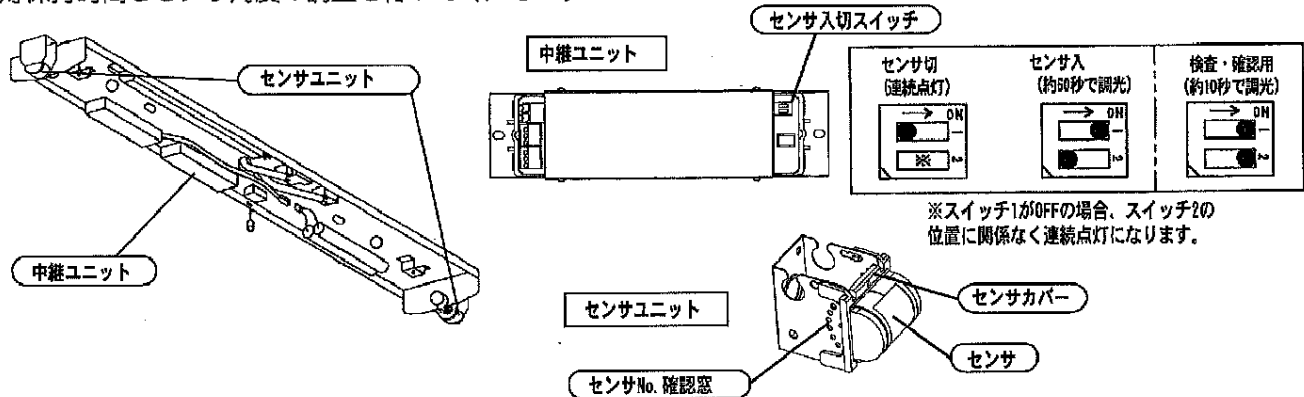
10. センサの動作確認

・実動作で正常動作（4ページ参照）するかを確認する。
　正常に動作しない場合は『センサ検知の注意点』（5ページ）の項を参照してください。

《センサの調整のしかた》（本体の取付前に調整を行ってください。）

（注）本内容は調整の『めやす』です。設置条件により検知範囲に差異が生じる場合があります。

センサ部のなまえとセンサの調整のしかた

・点灯保持時間とセンサ角度の調整を行ってください。

調整のしかた（センサは2個ついていますので各々調整願います。）

1. 点灯保持時間を設定

・中継ユニット上の保持時間設定スイッチを調整してください。
（出荷時設定は、60秒に設定されています。）

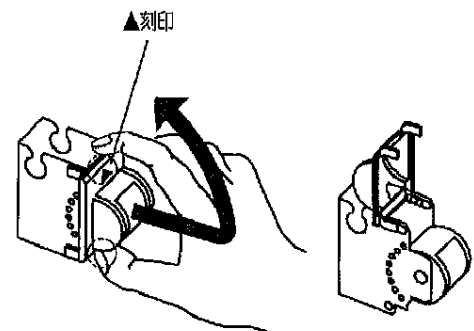
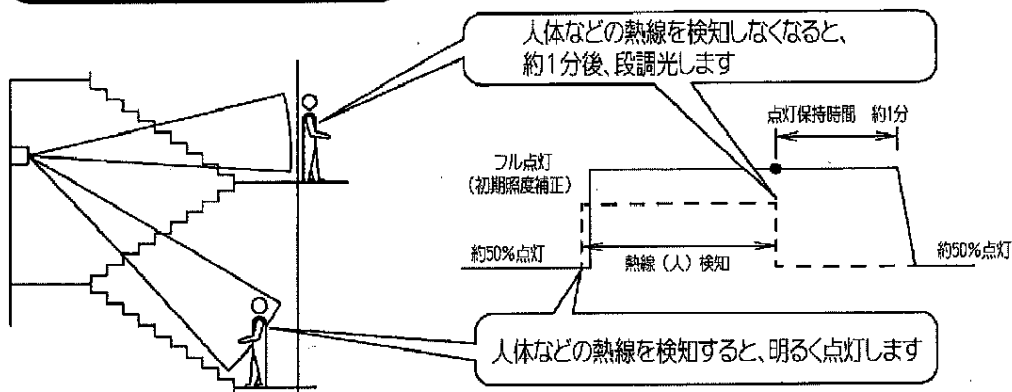
2. センサカバーを開く

・センサカバーの上下2ケ所の▲刻印方向をつまみ、真直ぐ手前に引き出し、
上方向へ回転させる。

3. センサの検知方向を調整

・センサの角度調整のしかた（4ページ参照）により調整を行ってください。
・設定はセンサNo. 確認窓で確認してください。
センサの調整は確実に行ってください。不備がありますと正常動作しない原因となります。

4. センサの検知方向を調整

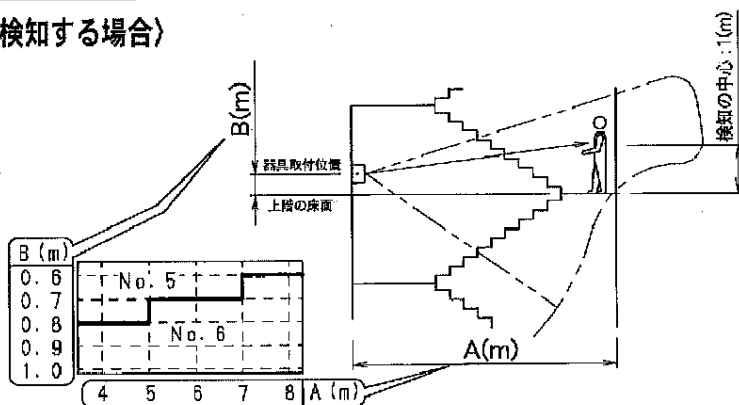
・センサカバーを開いた時と反対の手順で取付ける。

センサ動作説明

(注)
・火災信号受信時は、人の有無に関係なくフル点灯します。
・停電時は、人の有無に関係なく1960lmで点灯します。

・専用電源（AC100～242V）投入後は、センサのウォームアップの為、約60秒間強制的にフル点灯後センサーモードになります。
・センサ検知後、器具が点灯するまでに1～2秒程度かかることがあります。

センサの角度調整のしかた

・調整の準備ができましたら、上下階段に合わせて必ず調整を行ってください。
・器具出荷時は、点検スイッチを下に向けてセンサ右を『No.5』、センサ左を『No.8』に設定しています。

壁面取付の場合

〈上階を検知する場合〉

1) A、及びB寸法を確認する。
2) 次式により、Dを求める。

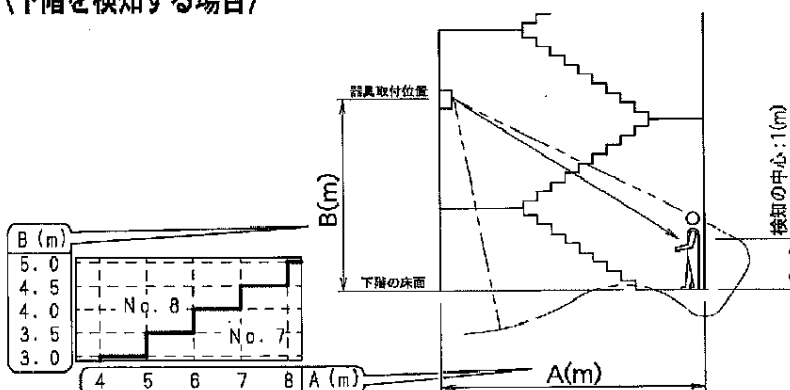
$$D=\frac{(1-B)\ [m]}{A\ [m]}$$

3) 次表により、センサのNo.を決定し、設定する。

D	センサNo.
0.05より小さい場合	No.6
0.05より大きい場合	No.5

〈下階を検知する場合〉

1) A、及びB寸法を確認する。
2) 次式により、Dを求める。

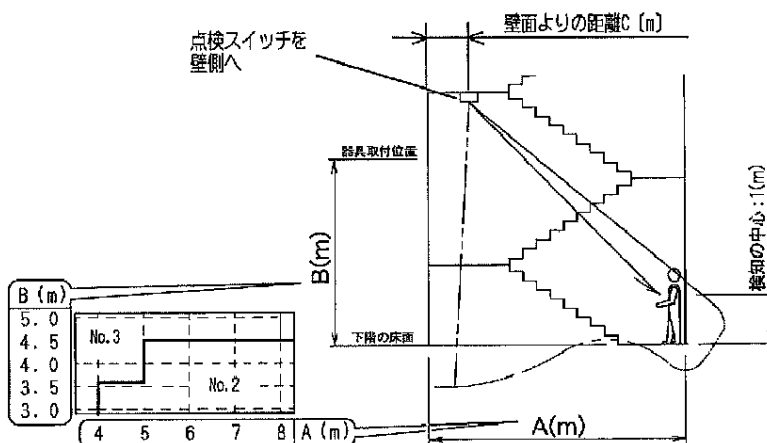
$$D=\frac{(B-1)\ [m]}{A\ [m]}$$

3) 次表により、センサのNo.を決定し、設定する。

D	センサNo.
0.45より小さい場合	No.7
0.45より大きい場合	No.8

天井面取付の場合

〈上階を検知する場合〉

・階段寸法に関係無くNo.1に設定する。

〈下階を検知する場合〉

1) A、及びB寸法を確認する。
2) 次式により、Dを求める。

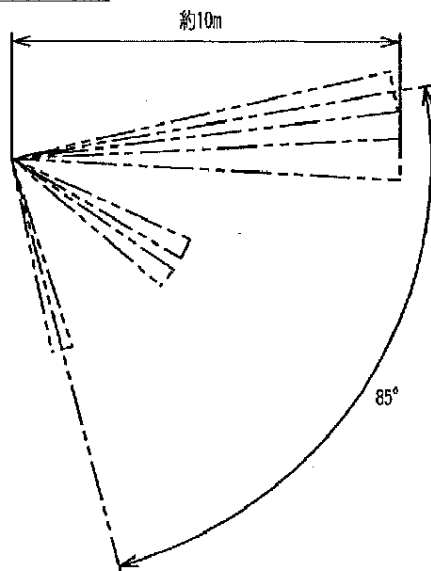
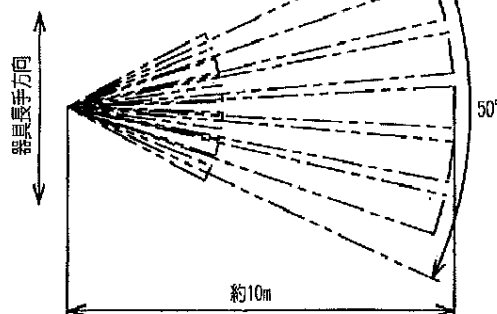
$$D=\frac{(B-1)\ [m]}{(A-C)\ [m]}$$

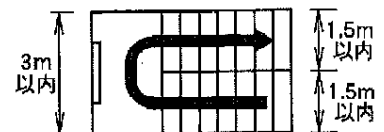
3) 次表により、センサのNo.を決定し、設定する。

D	センサNo.
0.90より小さい場合	No.2
0.90より大きい場合	No.3

センサ検知の注意点

センサ検知範囲（周囲温度:20℃の場合）

垂直方向

水平方向

上図の様に、センサによる検知範囲に入る人体などの『動き』を検知します。
（検知する温度差:2℃以上、移動スピードは0.3～2m/sec.）
周辺部は若干感度が鈍ります。

（注）・階段の幅は1.5m以内（踊り場の幅は3m以内）としてください。
ビームが疎となり、正常動作しない場合があります。
・周囲温度、人体温度などの条件により検知範囲に差異が生じる場合があります。
・センサは2個とも可動式ですので、上下階段に合わせて必ず調整をしてください。
調整が不十分な場合、正常動作しない原因となります。

(1) この器具（センサ）は熱線を検知するため、人体以外の温度変化でも検知する場合があります。
（例）・太陽光などの強い光の直接照射
・エアコンなどの気流
・検知エリア内の照明器具
・ブラインドやカーテンなどの動き
・人体以外の小動物の動き

(2) この器具（センサ）は温度変化を検知するため、夏場など周囲温度が人体とあまり変わらない場合には、検知範囲や感度が多少鈍くなる場合があります。

(3) この器具（センサ）は『動き』を検知するため、静止している場合や、動きの小さい場合は、検知しない場合があります。

(4) センサのビームを遮へいする障害物がある場合は，検知できません。

正常動作しない場合の処置

表にしたがってお調べいただき、処置を行ってください。

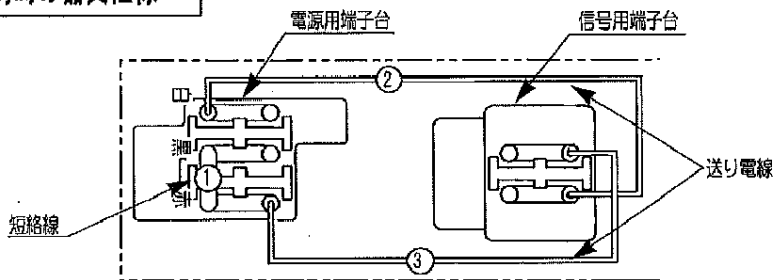
現　象	考えられる原因	処　置
●調光点灯しない	点灯保持時間が「連続点灯」になっている	センサ入切スイッチを切替えてください。（3ページ参照）
	検知範囲から人などがいなくなっても設定時間フル点灯を保持するため	約60秒間待つ
	信号端子の入力が0V	6ページ参照
●フル点灯しない	センサの前に障害物がある	障害物を取りのぞく
	センサの故障	工事店に連絡する
●正常動作しない	センサの角度調整が不十分	センサの再角度調整をする（4～5ページ参照）
	検知範囲に差異がある	正常動作（上記注意を参照下さい）

電源線・信号線の接続方法

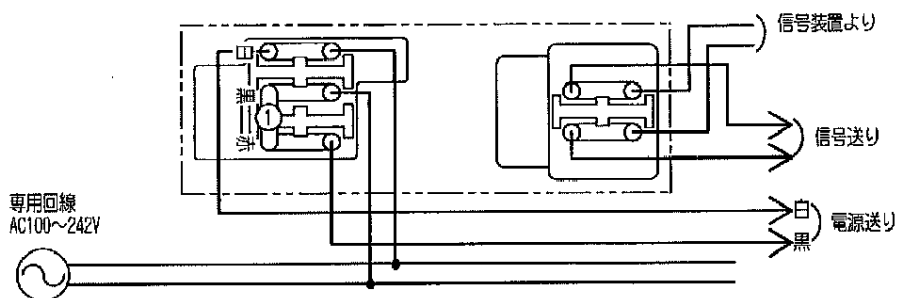
システム配線仕様に合わせて、A~Dのパターンより適切な方法で結線願います。
誤結線されますと、火災・感電・破損の原因となります。

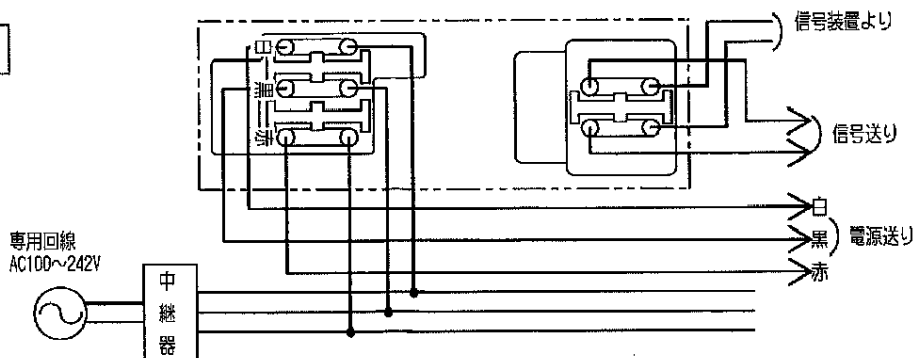
・電源電圧は100~242Vです。**電圧を間違えますと、火災・感電・破損の原因となります。**

・出荷時は短絡線①および、送り電線②③が接続されています。

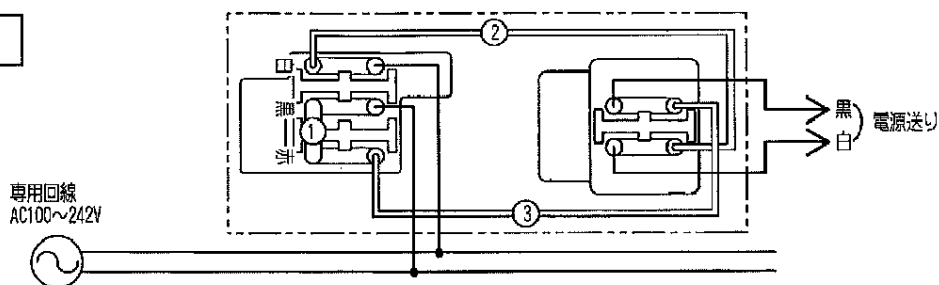
出荷時の器具仕様

(注) 2点鎖線は器具内を示します。

A　火報連動・2線式配線の場合

・送り電線②③をとりはずしてください。
・右図の通り接続してください。

B　火報連動・3線式配線（消灯）の場合

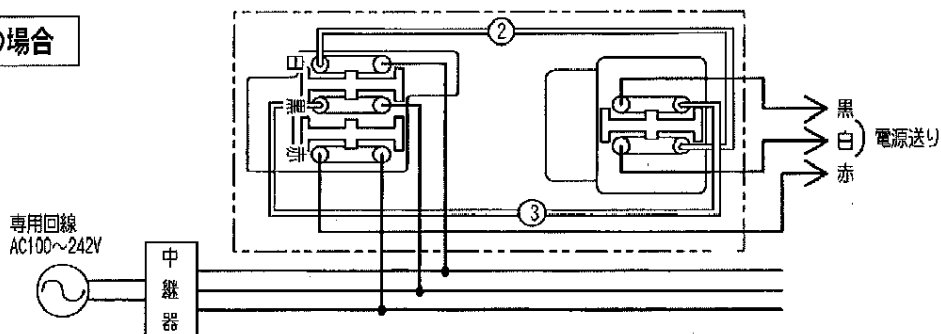
・短絡線①、送り電線②③をとりはずしてください。
・右図の通り接続してください。

C　火報連動なし・2線式配線の場合

・①②③を接続したまま、右図の通り接続してください。

『②③をとりはずすとセンサが動作しません。』

D　火報連動なし・3線式配線（消灯）の場合

・短絡線①をとりはずしてください。
・送り電線 ③を右図の通り接続し直してください。

『②③をとりはずすとセンサが動作しません。』

取扱説明　**お客様へ、この説明書は必ず保管ください。**

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意

⚠警告

●器具を改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
●万一、煙が出たり、変な臭いがするなどの異常を感じた時は、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。感電・火災の原因となります。

⚠注意

●アルカリ系洗剤は使用しないでください。強度低下による破損の原因となります。
●蓄電池を加熱したり、火や水の中へ入れたりしないでください。破裂する危険があります。
●蓄電池は絶対に分解しないでください。やけど・感電の原因となります。電池内の液は、皮膚や衣類をいためます。
●蓄電池のショートは絶対にさけてください。破裂・やけど・感電・火災の原因となります。
●照明器具には寿命があります[*1]。3～5年に1回は、工事店等の専門家による点検を実施していただき、
不具合がありましたら適切に処置してください。放置すると、火災の原因となることがあります。

＊1　照明器具は、使用条件、使用環境で異なりますが、8～10年が取り替え時期の目安です。但し蓄電池は4～6年です。

使用上のご注意

・長時間使用しない場合は、蓄電池をはずして保管してください。
・この器具は自動初期照度補正機能付照明器具です。定格出力の約75%の光束を保つように設計されています。
・電源投入後から数秒後に調光状態（初期照度補正状態）となります。始動時の数秒間は明るさが異なりますが異常ではありません。
・ランプ交換は同一電源回路の器具全てまたは器具単位での交換をおすすめします。
・ランプや器具の汚れについては補正しませんので、定期的な清掃をおすすめします。

累積点灯時間のリセットついて

この器具は、累積点灯時間を記憶しながら、点灯時間に応じた光束減退特性に基づいて、照度補正を行っています。
従って、新しいランプに交換される際、累積点灯時間をリセットする（累積点灯時間の記憶値をゼロにする）必要があります。

【ランプ寿命となった場合（自動リセットについて）】

この器具には、ランプ寿命を判断する機能が付いていますので、新しいランプへの交換と同時に自動的に累積点灯時間をリセットします。後述の手動リセットは不要です。

【ランプ破損等、寿命以外で交換される場合（手動リセットについて）】

操作手順

1）新しいランプへ交換する
2）通電状態で次の動作を7回繰り返す　点検スイッチを　引く（1秒間）→　戻す（1秒間）
リセット操作完了後、約10秒間はフル点灯します。

・停電などによる電源遮断時も累積点灯時間は保持されますので、自動初期照度補正機能は電源再投入後も正しく動作します。
・周囲温度が約5～10℃で使用される場合、始動時に移動縞が発生することがありますが、数分で解消いたします。
・調光機器などとの組合せはできません。
・ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離してご使用ください。雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
・同時通訳機等の誘導無線をご使用になられる場合、雑音が入る場合があります。事前に確認し、対策を講じてください。
・照明器具2台以下でほたるスイッチと組合わせて使用する場合、手動リセットが動作しない場合がありますので、スイッチは2箇所までとしてください。

保証について

●保証について　この商品の保証期間は1年間です。但し、安定器は3年間です。ランプ・電池等の消耗品は除きます。詳細は弊社カタログをご参照ください。
●保証書について　保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へお申し出ください。
●補修用性能部品について　弊社はこの照明器具の補修用性能部品（電気部品）を製造打ち切り後、6年間保有しています。
補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

お手入れ・部品交換

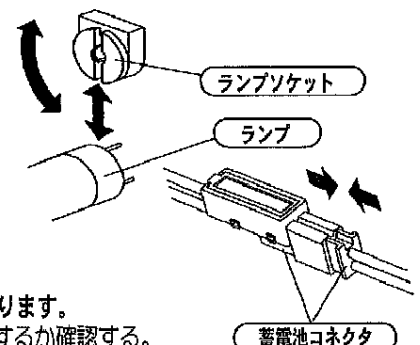
●器具の清掃について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。
変色・変質、強度低下による破損の原因となります。
●部品の交換について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・本体表示にしたがって、下記の指定された部品を使用してください。
（パナソニック製ランプをご使用ください。）

品　番	G-Hｆ蛍光ランプ	蓄電池
FSS61570	FHF63EN-G	FK748（7.2V　3000mAh）

蓄電池交換方法

蓄電池は、本体の中に入っています。下文の要領で行ってください。

1.電源を切り、ランプを90°回転させて取りはずす。**電源を切らない場合、感電の原因となります。**
2.取付ネジをはずし、反射板を取りはずす。
3.蓄電池を交換し、蓄電池コネクタを確実に接続する。**接続が不完全な場合、非常点灯しません。**
4.取付ネジで反射板を確実に取付ける。ランプを差し込み90°回転させて確実に取付ける。
取付はドライバー等を使用し確実に取付けてください。取付に不備がありますと、落下の原因となります。
5.電源通電後、ランプおよび充電モニターが点灯するか確認する。点検スイッチを引張り、非常点灯するか確認する。

取説　No.FSS61570-T

○定期点検　3ヶ月に1回は、破損、変形などの外観の点検をおすすめします。
6ヶ月に1回は、必ず非常点灯持続時間（30分間以上）、切替動作などの機能点検を合わせておこなってください。
（点検については、消防庁告示第3号および第14号に定められています。）

○設置年月日　年　月　日　　○取付場所　　○器具No.

点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者
	外観	機能			外観	機能			外観	機能	

システム動作説明

システム状態 ＼ 配線方法		調光火報連動なし 2線式配線の場合	調光火報連動なし 3線式配線の場合	調光火報連動 2線式配線の場合	調光火報連動 3線式配線の場合
常時	無人時	約50%で点灯			
	有人時（センサ検知）	100%で点灯			
	消灯信号入	―	消灯	―	消灯
常時（火災信号受信）	無人時	―	―	100%で点灯	
	有人時（センサ検知）	―	―		
非常時（停電時）		1960 l mで点灯			

故障かな？と思ったときは

表にしたがってお調べいただき、なお異常のある場合は、すぐ電源を切り、工事店に修理を依頼してください。

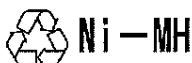
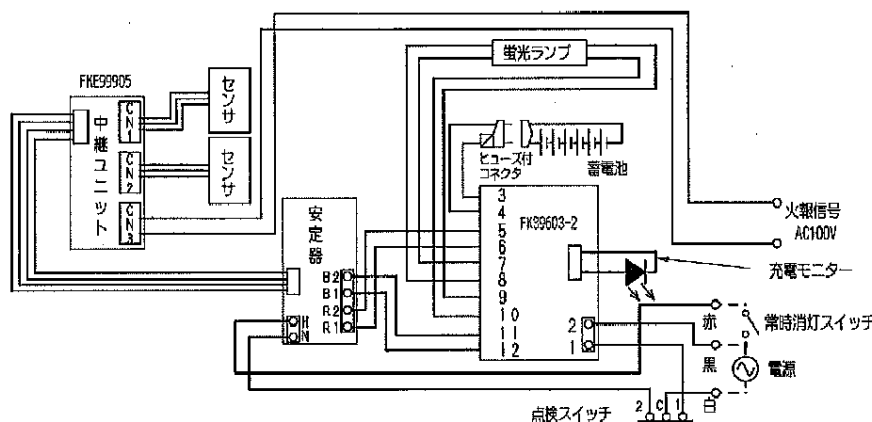
現　象	考えられる原因	処　置
●常時、ランプが点灯しない	ランプの寿命	ランプ交換する
●非常点灯しない	蓄電池コネクタはずれ	蓄電池コネクタを接続する
●短時間しか点灯しない（30分未満）	蓄電池の充電不足（保管時の自然放電や、施工時の放電など）	48時間以上充電する
	蓄電池の寿命	蓄電池交換する
●充電モニターが点灯しない	蓄電池コネクタはずれ	蓄電池コネクタを接続する

器具定格・接続図

●定格

品番	摘要	起動方法	ランプ	定格電圧	入力電流	入力電力	非常時光束
FSS61570	常　時	半導体式	FHF63EN-G	AC100−242V	0.36−0.13A	36W	―――
	非常時	―――		密閉型Ni-MH　蓄電池　7.2V　3000mAh			1960lm

●接続図

Ni−MH

この器具には、ニッケル水素電池を使用しております。ニッケル水素電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
ニッケル水素電池の交換、およびご使用済製品の廃棄に際してはニッケル水素電池を取り出し、リサイクルにご協力ください。

パナソニック電工株式会社　施設・屋外照明事業部　〔〒571-8686〕大阪府門真市門真1048